

平成25年度 道徳の授業改善のための方針

1 本年度の方策

① 授業で生かす

- ・資料や体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、書く活動や語り合う活動の充実
- ・年間計画に沿った主題の設定
- ・興味・関心を高める導入の工夫
- ・ねらいが明確な授業展開
- ・自己を振り返る時間の設定
- ・自他を尊重する学級・専科経営
- ・ノートやワークシートの活用
- ・提示等の工夫（紙芝居・VTR・CD）
- ・各教科・総合的な学習の時間・生活指導・特別活動と関連させた授業展開

② 全校で生かす

- ・道徳的心情の定着（1年生：34時間、2年生以上：35時間の確保）
- ・児童の実態に即した適時指導
- ・全校一堂に会した場の規範の徹底
- ・常時・集会等で学校への所属感の喚起
- ・読書のすすめ
- ・美しい言語環境の啓発・奨励
- ・重点目標の設定の工夫（「自立」に関わる指導事項の重視）

2 児童の実態

- ・学校の規則やきまりを進んで、守ろうとする意識が強い。（規則の尊重）
- ・全体的に学校や様々な行事、体験活動に進んで取り組める（勤勉・努力）の児童が多い。
- ・休み時間も進んで、友達と元気に遊んでいる。（望ましい生活習慣）
- ・平成24年度の学校評価の「だれに対しても、あいさつや返事をしている」（公德心）の項目では、保護者・児童の評価による評価が8割を超えた。

3 平成24年度の成果と課題（☆成果 ●課題）

☆「特色ある教育活動の推進」などの具体的な活動、道徳地区公開講座、また学校便り等の配布物による啓発が功を奏し、家庭・地域社会のとの連携が深まり、家庭で役割を持って生活する児童、自分の力を伸ばすことに進んで取り組む児童の割合が多かった。

☆自然に親しむことの体験をしている児童の割合が高く自然愛を育む土台作りになっている。

●校舎内ではあいさつができていない児童が「地域であいさつする」をしない場面が見られたり、登校時に声をかけても返事が返ってこないとの保護者の指摘があったりするので、生活指導と関連させて指導を充実させていく必要がある。

●友達を呼名する時、呼び捨てにしたりあだ名で呼んだりする場面がまだ見られるので、「～さん」「～くん」等、相手を尊重した呼び方をするように意識させていく。

4 学年ごとの重点目標

学年	問題点	重点目標
1年	・人を傷つける言葉かどうかかわからず言うてしまうことがある。 ・友達とトラブルになった時に寛容に受け止めることが難しい。	・言われてしまった児童の気持ちを繰り返し考えさせ指導する。 ・自分の気持ちばかりでなく客観的に物事を整理して考えられるように指導する。
2年	・自分の考えを発表できない児童がいる。	・自分の考えをもたせ、文字や言葉で表現する練習を重ねる。
3年	・資料を読んで自分の考えを発表できるようになってきたが、さらに自分の考えを深められるようにしたい。	・自分の考えを基に書いたり話し合ったりする時間を確保していく。
4年	・協力することが苦手、人の話を聞くのが苦手、ルールに関する意識が弱い。	・「協力、仲間、決まり」の3点を繰り返し指導していく。
5年	・自分の考えを基に書くことはできても、それを発表に生かしたり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりすることが苦手。	・実生活を振り返るための教材や発問を厳選し、それぞれの考えを尊重できるよう、ワークシートの発問内容をわかりやすく提示する。
6年	・道徳的な価値を、言葉でとらえて終わってしまう。	・副読本、東京都道徳教育教材集、心のノートなどの資料を幅広く活用し、「ほんとうにそれはいいことなのか」という価値判断を問い続ける。